

更生保護 あおり

【第100号】



ホームページ

発行日
令和8年3月

発行者
更生保護法人 青森県更生保護協会
青森県保護司会連合会
青森市長島1-3-28
更生保護施設プラザあすなる2階
あおり更生保護センター内
TEL 017 (718) 3184
<https://www.ao-kousei.com>



「道友会」明治45年5月1日 現名称赤門通り十二ヶ寺の住職たち（前列右から3番目が棟方唯一和尚）

棟方 唯一（むなかた ゆいいつ）

明治4年（1871） - 昭和18年（1943）、大仙市大川寺31世、五所川原市龍泉寺21世、弘前市宗徳寺28世、弘前市耕春院32世。明治4年9月25日に青森県北津軽郡五所川原村の宮本源吉の二男として生まれる。

受業師、本師は棟方玉応。弘前専門支校に入学した後、東京曹洞宗中学校に転校し、明治三十四年（1901）に曹洞宗大学林を卒業、翌年に曹洞宗教導講習院に学ぶ。耕春院と本寺の宗徳寺の復興を図り、宗徳寺を石川県金沢より移転し、本堂などの伽藍や鐘楼門の復興を托鉢などによって行う。宗徳寺に青森慈晃会を創設し、自らも教誨師として囚人の更生に尽くす。曹洞宗宗会議員、曹洞宗大学学監などを務め、宗門の維持興隆と宗侶の教育に貢献した。大正13年（1924）5月に梅檀中学が再度の火災にあい、校舎の再建や移転にあたり、その後処理に辛苦を重ねた。

昭和18年1月18日に72歳で示寂した。

（『曹洞宗名鑑』『現代仏教家人名辞典』）より一部抜粋



耕春山 宗徳寺（弘前市）



孤立させない 息の長い支援

青森保護観察所
所長 正木 勉

今から2年前、ある講演の中で「家族以外の人」と交流のない人の割合が日本は15.3%で、OECDの加盟国20か国中、最も高い割合だと知り、こんなにも社会的孤立が進んでいるのかと驚いたことがあった。

最近では孤立・孤独にならない近道としてA1の活用がある。A1は語り掛けると決して否定をしない。だから、心地良くなる。しがらみもなく、余計なことを考えずに相談できるのも魅力かもしれない。

ただ、私は孤独・孤立を解消できる最も有効な手段は人とつながり、ひとりにしないことだと確信している。それは東日本大震災の際に心を癒し、復興を後押ししたのは、新たな建物や街並みではなく、人と人との交流であったことを目の当たりにしたからである。

今年度から更生保護施設あすなるを拠点とした「あおもり更生保護センター」が本格的に始まる。全国的にも画期的な取り組みになる。

この青森において継続的な支援を必要とする犯罪をした者等と、その支援者の双方に寄り添った支援を実施することになる。とはいえ、まずはこのセンターが、だれもが気楽に立ち寄れる場所になることが第一歩である。



皆んなで世の中を 温めていきたい

更生保護法人
青森県更生保護協会
理事長 川嶋 勝美

2000年に青森更生保護協会の評議員を仰せつかったから26年経過しました。2019年から青森県就労支援事業者機構の会長として8年目。2021年から青森県更生保護協会の理事長として5年目。

保護司さん、雇用主さん、女性会の皆さんなど更生保護に関わる皆様は、志が高いばかりで大いに勉強させていただきましたが、あっという間に時は過ぎ去りました。

これから、青森県の更生保護に関わる皆様と一緒に勉強し目標としたいこと。

- ①外から学ぶ。…県外の更生保護活動から学び、知見を上げたい…県外視察などの実施
- ②若手の育成。…学生時代から更生保護を学ぶ機会を増やす。
- ③行政との連携。…青森県及び市町村との連携を深め、更生保護活動はもとより、地域社会の見守り隊としての役割も広げて行きたい。
- ④あおもり更生保護センターの活動を活発化。昨年誕生したセンターを中心に更生保護関係7団体の連携。

罪を犯した人の社会復帰と犯罪のない地域社会づくりのために保護観察所指導のもとでより一層充実した更生保護活動を続け、皆んなで世の中を温めていきたい。

法務省 保護局のホームページが 新しくなりました



私たちの取組（更生保護）

- 更生保護は、国と地方、保護司などの民間ボランティアが協力し、社会の中で、犯罪や非行から立ち直ろうとする人を支援することにより、新たな被害者も加害者も生まない社会をつくる取組です。
- 日本の文化に育まれた「更生保護」は、安全・安心な社会を支えるものとして、諸外国の制度の参考にもされています。



「生きづらさ」を抱えた人々への一助に

青森県保護司会連合会
会長 天内 修

保護司の皆様には、日ごろ更生保護活動にご尽力いただいておりますこと、さらには昨年の東北地方更生保護大会、青森県更生保護大会を成功裡に導き終了したことに感謝し敬意を申し上げます。

保護司は、保護観察対象者の更生へのお手伝いと地域の安全安心に向け犯罪予防活動等をしてきました。これからは矯正施設等を出所した人たちを含め「生きづらさ」を抱えた人たちのニーズに応じて、同じ地域の安全安心に関わっている様々な団体や機関と連携していくことが肝要です。更生保護関係団体、福祉関係、法テラス、医療機関、行政等々、関係機関と常に情報共有し、連携していかなければと思っています。

現在、当保護司会連合会を含め県内の更生保護関係7団体の拠点「あおもり更生保護センター」において、「あおもり更生保護ネットワーク」の構築連携を深めていき、生きづらさを抱えた人々への一助となりますよう努めてまいります。今後とも、皆様の御支援をお願い致します。

本誌「更生保護あおもり」が100号を迎えました。これまで編集に関わられた方々に対し感謝を申し上げます。



「ほっとけない心」のモットーで活動

青森県更生保護女性連盟
会長 塩原 誓子

平素は、当連盟に温かいご理解と多大なご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

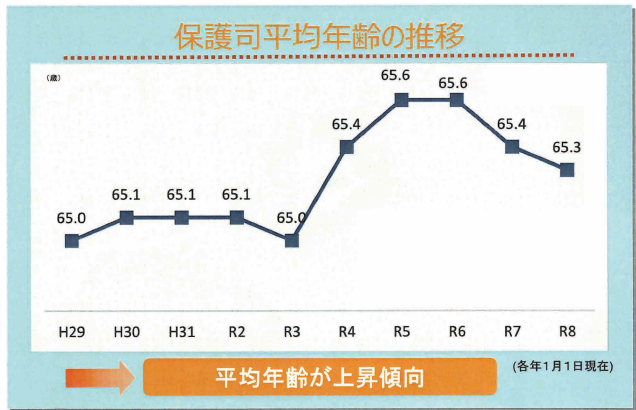
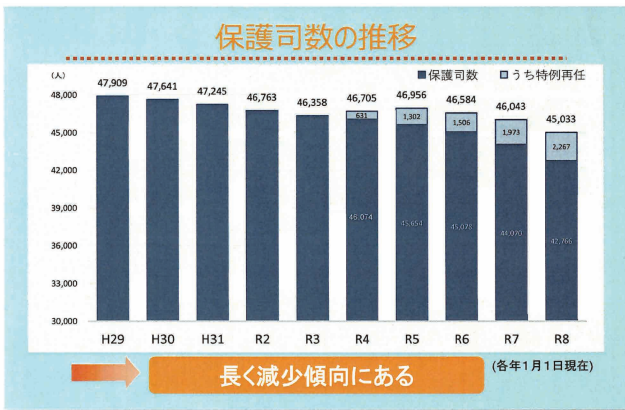
日頃は、更生保護関係7団体として連携による活動にお声をかけていただき感謝いたしております。

当連盟は、だれもが心豊かに暮らせる明るい社会づくりをめざし、昭和37年の発足以来、本年まで64年間、更生保護女性会がそれぞれの地域に根差したボランティア活動を展開しています。そして、年に一度開催している「秋の集い」では、県内から更生保護女性会員が一堂に集い、顕彰や情報交換で団結を深めています。

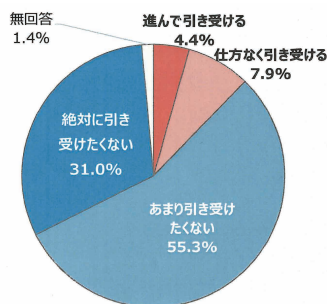
特に令和7年に開催された東北地方と青森県合同の更生保護大会への参加やお手伝いをさせて頂いたことが、有意義な経験でありました。

昨今は、世界的な人口減少に伴い、当連盟も会員数が減少しております。しかし、ここで滞ることなく更女（更生保護女性会）のモットーであります「ほっとけない心」で会員一同、力を合わせて「明るく・楽しく・前向きに」活動して参りたいと思います。

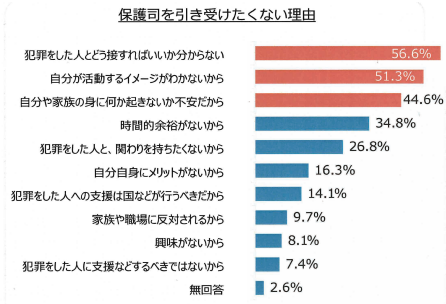
今後ともご指導のほどを宜しくお願い申し上げます。



保護司になることを頼まれたらどうするか



出典：保護局（令和7年）





インクルーシブな マインドをもつ

青森県BBS連盟
会長 宮崎 秀一

2023年5月、「BBS 運動基本原則」が改定されBBS活動の在り方が根本的に見直されました。従来は「非行少年」の更生を支援することが活動の柱でしたが、今後は広く「様々な事情から社会的に疎外されたりしている子ども・若者の生きづらさに焦点を当てて」、その「立直りや再チャレンジを支え、自分らしく前向きに生きていくことを促す活動」をBBSにおける「ともだち活動」と定義し直したのです。実際、全国的に犯罪・非行は減少傾向が続く反面、虐待、貧困、いじめ、学業不振、不登校、ひきこもり等で生きづらさを抱える子ども・若者は右肩上がりに増えている現実に照らすと、この改定はむしろ遅かったとさえ思われます。

本県では大学の学生サークルの形態をとる学域BBS会が中心となって、かなり以前からこの新運動原則を先取りした「ともだち活動」を実践してきました。児童自立支援施設の入所児童やひとり親家庭の子どもを対象とする学習支援やスポーツ交流等で学生が文字通り兄・姉的存在・ロールモデルとして接する結果、子どもが自分の将来の在り方を漠然とでもイメージできることは大変有意義です。他方学生自身も、子どもたちの生きづらさの背景にある様々な社会的矛盾に触れることで自己の生き方を見つめ、自分の周囲の生きづらさを抱える子ども・若者に寄り添うインクルーシブなマインドをもつ市民として成長する契機となります。BBS活動の最大の利点は、対象となる子ども・若者と活動主体である学生会員の双方を育む効果をもつことにあると確信し、今後も活動を支援していきたいと考えています。



プラットフォーム の改変

青森県更生保護施設
プラザあすなる
理事長 黒瀧 信行

更生保護施設事業界は特にその事業目的に於いて大きな変革がありました。

「プラットフォームの改変」などと説明されております。従来の更生保護施設の事業目的は、入所者の自立更生を図ることの役割はあり、そのように処遇もなされては来ましたが、被保護者に食事と宿泊場所を与えることにその基盤があったことは否めません。

今回の変革、いわゆるプラットフォームの改変は、宿泊施設から処遇施設への変革。これには、「息の長い処遇」というサブフレーズが付けられてもおります。

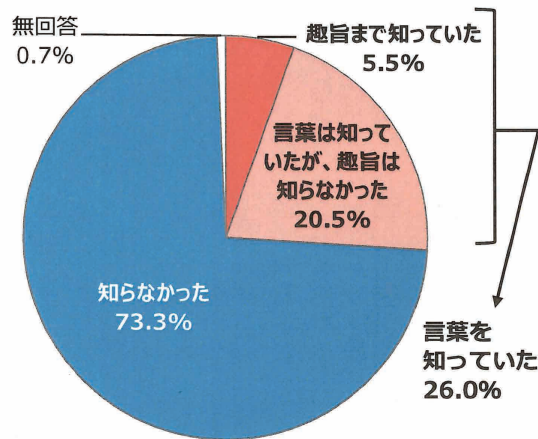
心ある担当者にとって、やりがいをもたらすうれしい変革です。

具体的な施策の一例として、「特定補導」があります。被保護者の自立更生のための種々のメニューがあり、それらの実施に対し、相応の対価がいただけるというものです。

「あすなる」のみならず、全国多くの施設が赤字体質に悩み、専ら収容率に一喜一憂している遺憾なる状況から鑑み、処遇面での変革は勿論、同時に経営の安定化の一刻も早い解決が強く要請されているところです。

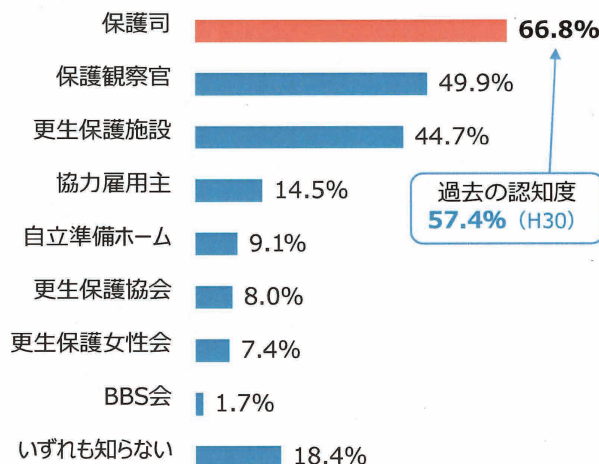
「更生保護制度に関する世論調査」(令和7年)の結果 ※速報値

「社会を明るくする運動」の認知度・理解度



(※) 過去の認知度 (「言葉を聞いたことがあるか」)
39.1% (H21) → 34.2% (H26) → 27.8% (H30)

更生保護に携わる民間協力者等の認知度





立ち直ろうとする人の「心の拠り所」

青森県協力雇用主会連盟
会長 佐藤 武治

私たちの故郷・青森県は、豊かな自然と人情味あふれる絆が息づく地域です。しかし、一度道を踏み外した人が地域に戻る際、厳しい雇用情勢や住まいの確保と言った現実と直面し、孤立してしまうケースが少なくありません。

刑務所出所後に帰住先がない人の割合は年々減少傾向にありますが、令和3年で16%(6人に一人)というデータもあり、孤立は再犯の大きな要因となります。

そこで大切なのが「更生保護」です。現在、県内では第2次再犯防止推進計画の策定が進められるなど、官民一体となった支援の重要性が増しています。

就労支援を行う協力雇用主、保護司、更生保護女性会、BBS会などのボランティア活動は、立ち直ろうとする人の「心の拠り所」です。排除ではなく、地域の温かな目で見守り、社会の一員として包摂すること。それが、新たな被害者を出さない、真に安全で安心な青森の未来をつくる第一歩となります。

誰もがやり直せる社会を目指し、更生保護へのご理解とご協力をお願い申し上げます。



「良樹根毛」を想起する

特定非営利活動法人
青森県就労支援事業者機構
常務理事 鎌田 喜代志

「良樹根毛」という標語がある。私は、平成5年に東京アークヒルズで、ある農大の鈴木教授の講演に歓喜感激した。それは大きくて、立派な樹木にはそれを支える大小の根があり、地上の樹形と同程度量の根が機能してるが、殊に毛細でおびただしく多量な目に見えない程の「根毛」が重要で大切なのだと。

私たち保護司も約48,000人、更生保護女性会員、BBS会員、そして多くの更生保護団体の構成者が日本社会の安全安心を醸成する一翼を担う、更生保護の「社会を明るくする運動」に参画し、犯罪防止と犯罪者等の更生に大きく寄与している。戦後の苦難の復興期、昭和24年から綿々と活動を継続し、社会に根本から奉仕している。

転じて、同心円的に、東京オリンピックの前年、昭和38年に「小さな親切運動」が発足し、東大の茅学長が卒業式での呼びかけがきっかけで、社会運動となり、相乗効果的に社会が成熟する。

「青森県の更生保護」を思う時、私は「良樹根毛」を想起する。

保護観察対象者等の口座開設支援について

法務省・金融庁

前歴等により金融機関での口座開設を拒否されているものの、現に協力雇用主の下で就労し、社会復帰を目指し努力している保護観察対象者等について、金融機関に対して、過去の前歴等だけでなく現在の状況を踏まえた口座開設の判断がなされるよう保護観察所から、保護観察等に係る事項や就労状況などの情報を提供するものです。

前歴等により金融機関での口座開設を拒否されている 保護観察対象者等から相談を受けた時は

※支援対象者の要件がありますので、詳しくは青森保護観察所または保護司までお問い合わせ下さい。

口座開設支援の導入



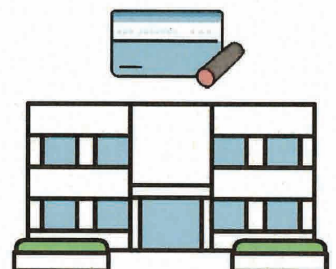
刑務所出所者等



保護観察官又は保護司



協力雇用主



金融機関

特集



人はみな、
生かされて
生きてゆく。

息の長い支援の実

第32回東北地方更生保護大会・第45回青森県更生保

犯罪や非行のない明るい社会を目指し、東北地方更生保護大会・青森県更生保護大会が令和7年11月26日、青森市のリンクステーションホール青森で開かれました。

東北各県から保護司や更生保護女性会員、協力雇用主など更生保護関係者約900人が集い、五所川原第一高等学校津軽三味線部の生徒たちによる歓迎の生演奏が披露され、法務省前保護局長・押切久遠氏による講演、顕彰式典、大会宣言を採択しました。



東北地方更生保護委員会、青森保護観察所、保護司会、更女会、関係者総勢約90名のスタッフが準備から熱い気持ちで取り組む

事前に開催された大会実行委員会では、青森保護観察所企画調整課の佐々木課長、相馬保護観察官、保護司会連合会の天内会長初め青森地区保護司会、更生保護女性会の皆さんがスタッフとして参加しました。大会前日には、総動員でリハーサルを開催し、本番に向けて気合が入っていました。



国道4号線沿いにある会場前に東北各地から次々と貸切バスが到着。専門の誘導員とスタッフが対応し、スムーズに入場できました。



「はい、チーズ」到着バス誘導担当のスタッフが機転を利かし対応。記念写真の撮影に協力できました。



青森市物産協会の即売。皆様お買い上げありがとうございました。



青森県保護司会連合会が更生保護に関するパネルを展示。



受付に参加者が滞留しないように、代表受彰者と来賓だけ受付し、一般参加者（保護司・更女会）は入場する際、参加証を提示後、プログラム・記念品セットを受取りまっすぐ会場へ。会場内では、座席誘導スタッフが各県ごとに案内しました。



記念品
青森ひばの黄色い羽根根付

現に寄与することを宣言

保護大会（令和7年11月26日・青森市・リンクステーションホール青森）



【清興】学校法人館田学園 五所川原第一高等学校 津軽三味線部生徒の演奏

平成15年に創部。「全国高等学校総合文化祭 出場13回」「青森県高等学校総合文化祭郷土芸能部門 最優秀賞10回」「津軽三味線全日本金木大会 団体の部 優勝7回」「津軽三味線世界大会団体部門グループB優勝1回」の実績を誇る。



【講演】講師：押切 久遠氏（前 法務省保護局長）

犯罪・非行を犯す人が持ちやすい「責任転嫁」や「無力感」を改めるためにも、人とのつながりの大切さが大事。「いるんな人とつながることによって何が起こるかという今まで凝り固まっていた自分の考え方、ものの受け止め方があるんな視点を感じることで知ることによって柔らかくなっていくほぐれていくということがあるのだと思います」（講演の一部より）



【式辞】 写真右：東北地方保護司連盟会長 天内 修

詳しくは動画配信をご覧ください。

ホームページ青森県更生保護ネットワーク
(トップページに3部構成)



YouTube 直接リンク

【清興】



【講演】



【式典】



司会者は、青森地区保護司会の保護司です。



【法務大臣表彰】青森県内から13名が表彰されました。(写真左：青森保護観察所正木勉所長、右：東北地方更生保護委員会社裕子委員長代理・野尻実)



ステージ袖ではホゴちゃん、サラちゃん提灯がお出迎え



写真右：受彰者代表謝辞 高橋芳久・八戸地区保護司



万歳三唱の風景

青森県の更生保護事業 先覚者 棟方唯一 物語

弘前市・宗徳寺28世非相唯一大和尚

1999年発行『更生保護史の人物と』
鹿内國三 棟方唯一より抜粋

教誨師の唯一は、自分を頼って くる釈放者を何としても更生さ せたいと駆られていた

唯一は明治4年9月25日、青森県北津軽郡鶴田村（現在鶴田町）で農業を営む宮本源吉の6人兄弟の次男として生まれたが、貧農で兄弟が多いため唯一は出家を余儀なくされ、明治16年北津軽郡五所川原町（現在五所川原市）龍泉寺住職棟方玉応の弟子となり仏道に入った。唯一は英邁慧敏で玉応師の信頼が厚く、東都に遊び、曹洞宗中学林、高等学林を経て大学林（現在の駒沢大学）に入る。

大学林卒業後は弘前市宗徳寺住職となる。その後、第8師団の布教師及び教誨師をしていた唯一師は、自分を頼ってくる釈放者を何としても更生させたいという止むに止まれぬ気持ちに駆られていた。折しも明治30年1月、英照皇太后崩御大葬に当たり、減刑令が公布され多数の放免者を見るにいたり、全国各地において保護会設立の気運が一段と盛り上がった。唯一師は、青森県においても免囚保護事業の必要性を痛感し、弘前市内各宗寺院（浄土宗を除く）とはかり、免囚保護会仏教慈晃会の創設に漕ぎつけ、自ら初代会長に就任した。明治31年5月30日のことである。



東北福祉大学棟方唯一胸像。当初建立された中庭から現在は正門脇に移され、社会福祉の発展を見守っている。

26歳で仏教慈晃会（青森慈晃会）を創設。東北では二番目の免囚保護会である

その後、明治40年から免囚保護事業奨励金の国庫支出、明治43年4月18日の岡部司法大臣の府県知事に対する出獄人保護に関する訓示や、明治天皇崩御による恩赦を間近に控えるなどを背景に、唯一師の主唱による仏教慈晃会は、県下一般各寺院の共同事業として、大正元年8月10日青森県仏教慈晃会と改称し、知事を総裁に、地方裁判所長及び検事正を副総裁とし、唯一師は会長としてその任にあたった。

唯一師は峻厳実直、己にきびしく又弟子達にも非常にきびしかった。“至誠”“断固”が口癖で一旦引受けたことはどんなことがあってもやり抜くという人であった。教誨師を囑託されていた師は、釈放者の更生は国家安泰につながるものとの強い信念を持っていたため、刑務所から釈放された者が相談にのって欲しいと訪ねることが多く、常に10名内外の者を自坊に泊め更生のため心を砕いた。釈放者の中には師の親身も及ばぬ世話に感激し、更生した姿をみせるため師のもとを訪ねる者も数多かった。或る時は、秋田刑務所の釈放者が師の恩に感じて自作の丹精込めた藤椅子を寄贈する例もあった。唯一師はそれを好んで使ったという。

唯一師は大正2年6月、秋田県大曲町曹洞宗大川寺住職に迎えられたが、なお引続き宗徳寺の監理に当り（昭和9年黒瀧精一師にゆずる）、その一方で社会救済事業に貢献した。その後曹洞宗大学林副学監に任ぜられ、やがて学監に昇任し、退任後大正11年から宗務会議員として活躍した。大正12年4月、今までの業績手腕が買われ、火災のため校舎の殆どを焼失した仙台市曹洞宗立第二中学林（現在の東北福祉大学）の復興のため林長に選任された。

しかし復興の事業は大正末年から昭和初頭にかけての経済界の不況から難航し苦境に立たされ、何度も私財を投じ校舎の再建及び寄宿舎建設を敢行し昭和6年退任したが、昭和12年に同窓会は師を中其の功労者として感謝をこめ、その寿像を刻み校庭の一隅に安置して永く後世に伝えている。



青森県更生保護事業嚆矢顕彰碑
耕春山宗徳寺住職 黒瀧 信行
（更生保護法人あすなる理事長）
平成24年11月建立
撮影令和2年

地域で支える息の長い伴走のカタチ

あおもり更生保護センター開設記念 再犯防止シンポジウム



令和7年4月青森市の更生保護施設プラザあすなる内に開設した「あおもり更生保護センター」主催で、再犯防止シンポジウム「更生保護ネットワークセミナー」が令和7年12月14日(日)青森県立保健大学で開催されました。

午前の部は、映画「ミックスマダン」の上映。これは、元受刑者や少年院出身者を雇いながら、社会復帰の助けをしているお好み焼き屋の夫婦。「人生をやり直したい!」と訴えかける18歳の少年を採用する。しかし、かつての窃盗仲間と連絡を取り、クラブで羽目はずしてしまふ。少年は、次第に気がゆるみ、店で孤立していく…。というストーリー。



誰もが安心して暮らすことのできる町づくりに

このセミナーは、生きづらさを抱える人に寄り添う支援とは何か。出所後の孤立を防ぎ、再出発の就労や生活を支える仕組みづくり。そして支援する側をも支えられる取り組みをつくるために何が 필요한のか。再犯防止推進計画の基、行政・福祉・民間団体・更生保護関係者がつながる再犯防止ネットワークづくり等をテーマに開催しました。



トークセッションの風景

生きづらさを抱える人へ、つながりを届けるために

午後の部は、基調講演とトークセッションが行われました。基調講演は、元厚生労働省 矯正施設退所者地域支援対策官・社会福祉士 No emotion 代表の伊豆丸 剛史氏。演題は「罪を犯した人への支援から考える、これからの地域づくり」～生きづらさを抱える人へ、つながりを届けるために～。

伊豆丸氏は、全国初の支援センターで、平成21年から罪を犯した障がい者や高齢者など830人以上の社会復帰に寄り添ってきた講師。



伊豆丸 剛史氏

再犯防止推進計画の基、行政・福祉・民間団体・更生保護関係者がつながる再犯防止ネットワークづくり等をテーマに開催しました。トークセッションでは、スピーカーの幸島聡氏、篠原佑介氏、天内修氏がそれぞれの立場から説明をして、会場からの質問に答えていました。

◎モデレーター／葛西 裕美氏 (社会福祉法人青森県社会福祉協議会事務局次長・社会貢献活動推進室室長)

◎スピーカー／

- 伊豆丸剛史氏 (No emotion 代表・社会福祉士)、
- 幸島聡氏 (更生保護法人日本更生保護協会常務理事・事務局長)、
- 篠原佑介氏 (公益社団法人青森県社会福祉士会・リーガルソーシャルワーク部会会長)、
- 天内修氏 (青森県保護司会連合会会長・あおもり更生保護センター長)



会場となった青森県立保健大学 大講義室

更生保護制度の充実を図るための保護司法等の一部を改正する法律

令和7年12月 法務省保護局 (一部抜粋)

- ◎保護司の人脈のみに頼った候補者探しからの脱却
- ◎保護司の任期を延長 (2年⇒3年) 保護司法6
- ◎保護観察所の長による保護司会等への支援規定の新設 保護司法14
- ◎地方公共団体による保護司会等への協力規定の整備 保護司法18
- ◎民間企業による保護司である従業者への配慮規定の新設 保護司法19・20
- ◎保護司の安全確保に関する国の責務規定の新設 (面接場所の確保等の施策を推進) 保護司法16

国・地方・民間で保護司を支え、安定・継続的な保護司活動の実現!!



保護司を42年間努めた和尚

県西ブロック研修より

～ 元 鱒ヶ沢地区保護司会会長 安田悠宏氏 ～

36歳の時に保護司を拝命

只今、紹介に預かりました安田です。非常に緊張しています。お葬式より緊張しております。(中略)



私は36歳から保護司をしていました。昭和58年3月に保護司の辞令をいただきました。名簿を見ますと、昭和の時代に拝命を受けた保護司さんというのは、もう5、6人くらいはいなくなってしまう、ああ、昭和の時代というのはもう遠くなったんだと感じた次第でございます。

更生保護会館建設反対運動に会う

昭和55年に、青森保護観察所で大きな出来事が起きたわけがあります。それは、保護施設の建設にあたっての出来事でした。私は、たまたまそのその時に、青森市のお寺で浄土宗の会議があり、途中、拡声器の大きな音がして、何だろうなと思って見たら慈恵会館建設反対、大きなプラカードをもっての方が悠に300人以上はあったように思います。車が先導し建設反対、建設反対といていた。その慈恵会館が大変なことになっているんだなと思っていただけでありますけれども、まさか自分でそういう保護司を務めるということになるうとは夢にも考えてはいなかった訳です。

青森県更生保護の起源は、明治31年、弘前の禅林街にあります、宗徳寺の棟方唯一和尚さんが、当時のいろんな事業をやっている会社関係に理解のある方々に協力を仰いで民衆保護会、仏教慈恵会、大正15年青森市の実業家、大坂組という大坂さん、青森市の造道に終戦後、空襲にあった建物を改めて、昭和34年古館に移転、昭和55年に施設の全面改修をしようとしたところ、近隣の理解が得られず、なかなか思うように進まない。そういうことがまずあったことを知っていただきたいと思います。ちょうどその時に、私が保護司やって、もう7、8年くらい経ってからですね。2回目の保護観察に向けて、その時ちょうど刑務所から出てくる予定で、環境調整というのを受けて、身元引受人にされたというか、まあ指名をされていて、私が訪問したら、顔が青ざめてしまって、今その人に来てもらっては、自分たちの家族も娘も息子もそれぞれ社会人として勤めていて、戻ってこられたらもう大変だということでした。そんなことでしたが、何とか引受人にもなって頂きたいと。あとは住む所、食べるものとかは、こういう保護施設がありますのでご理解をして頂けませんか。という話をしましたけれども、引き受けることができません。ということでした。その時に青森に保護施設があれば、その人の人生が変わったのではないかと思います。当時、国内に百数か所あるうちで建っていないのが青森県ともう一ヶ所でした。そして当時その施設のことを大きく報道されています。

平成4年8月の東奥日報の社説には、今度こそ実現をという大きな見出しで書かれていました。その反対運動は見た人でなければわからないくらいの激しいもので、刑務所の中に作ればいいんじゃないか、刑務所の中にプレハブ小屋みたいなものを建てれば良いなどお年を召した方が先に立っていました。

ようやく更生保護施設「あすなる」というのが建設されたというの、ずっとずっと後になってから平成12年9月のお彼岸の頃に開所になったわけでありました。

昨年6月だったですかね。皆様ご承知のことと思いますけれども、滋賀県の犬津で保護司の方が対象者に刃物で傷つけられて亡くなったという。ちょうどその年、平成24年の12月。浄土宗の保護司会と教師の研修会が行われて京都でありました。あー、保護司もそろそろ終わりになるから、最後に全国の研修会に出てみよう。で行ったら、保護施設のルーツが青森よりずっと古く、日本で一番最初に作られたその更生保護施設が、静岡県浜松に建てられておられたわけでありました。国道1号線の近くに日本家屋が建つ、地元の実業家、金原明善、1832年に生まれた方で、1923

年にお亡くなりになりましたけれども、今はその建物が一年間通して一般に解放をされているわけでありました。金原さんは、水害が頻発していた地元の天竜川の治水事業に奔走した人物として知られております。植林などの事業も手がける中、力を入れたのが出獄人の保護であったわけでありました。きっかけは、治水事業に派遣されていた人物が、西南戦争に関連して政府転覆を図ろうとして有罪判決を受け服役し、出所したこの人物を介し、同様の罪で服役していた川村矯一郎に出会ったわけでした。囚人は人間として扱われない。そんな内情を聞き、1880年、明治13年に静岡監獄会を設立。県下の監獄に僧侶らを派遣するなどして、囚人の改心を促す試みを始めたということでありました。

川村矯一郎は、静岡監獄の副典獄、今でいうと副署長に当たるそうですが、転機がきたわけでありました。

川村のもとで改心をした元囚人が故郷に戻ると、妻には新たな家庭があり、親族からは門前払いをされ、寝る時間も食べるものもなかった。二度と罪は犯さないという川村との約束を守り続けた末に自らの命を絶ったわけでありました。この話を聞いて心を痛めた金原明善、明治21年に新たに静岡県出獄人保護会を作って出所した人に宿泊場所や仕事の紹介など、生活の基盤作りを手伝って、日本で最初の更生保護施設と言われている所以がそこにあるわけでありました。

私は40有余年の保護司というものをやって自分なりに考えました。保護司とは、人と人が向き合うこと、これが保護司の全てだと私は思っております。誰もが己の人生をつなぐ人間であります。たとえそれが歪んだ道であろうと、同じ歩幅でそこに並び寄り添う存在が保護司であると思っております。誰を裁くのではない。また赦すのではない。ただ、対象者の人生に何があったか、その事実をじっくりと見つめることが、保護司に求められたいといえる。事実とは犯罪ではなく、対象者自身の人間性であります。それは決して生まれつきのものではなく、自らの努力と周囲への支援によって人は変わらなければなりません。対象者の生活のそばに伴い、一緒に語り合う中から更生への道を歩んでいくことが大事だと思います。更生保護法で犯罪予防が第1条に掲げられており、第2条では、全ての国民は、更生保護の目的を達成するために、その知恵と能力に応じ、それぞれ応分の寄与するように努めなければならない。国民に理解と協力を呼びかけ、お願いしているのもそのためであるのではないかと思います。我々保護司はいろんな方々と面会することがあります。私は、全部家の方に来てもらって面接をしています。うちの妻はお茶を出してくれました。こうして保護司を長いこと続けることができたのも、たった一人しかない妻のおかげで、保護司がずっと続けられてきたんです。観察されることも50年になっておりますけれども、未だに妻には頭が上がりません。今日もお父さん大丈夫？ 喋るの。あ～大丈夫、大丈夫って。ちゃんと薬飲んで行きなさい。と言われてきましたけれども、なかなかこの歳になってきたら、やっぱりこう思考力っていうか考えるのが衰えてきております。まあ前々から衰えていきますので、今さらながら口にすることはないですけども今日はもう県西ブロックの保護司の研修会。尾崎会長さんからも必ずしゃべって欲しい、しゃべって欲しいとは、どう断れば良くなって。うまい具合に葬式ができてくれれば良いのですが。誰か代わってらっしゃって。ここだけの話でお葬式もなかったんで、去年からずっとこの県西ブロックの研修会の時にどうすればあれなのかと思って、昨夜もなかなか寝付かれませんでした。眠る薬を飲んで。それはちゃんと薬物乱用しないで。起こされるまで寝て朝が来たんだなということで気がついて、今日お話をさせていただいて参考にはならない話でしたけれども。

保護司はいろいろな研修会がありますけれども一番その元になるのは社会を明るくする運動で、子供たちへの心がけ挨拶運動、それが地道な活動ですけども、それが一番の保護司の社会を明るくする運動につながっていくと思います。皆さん、研修会ではできるだけ参加をしていれば、必ず何か一つ収穫になると思います。任期満了まで精一杯保護司としての務めを果たしていければと思います。以上でございます。

【令和7年10月21日に開催された講演を編集したものです。】

2025 ブロック報告 県央



工藤和彦氏

三浦和之氏



むつ下北地区の保護司

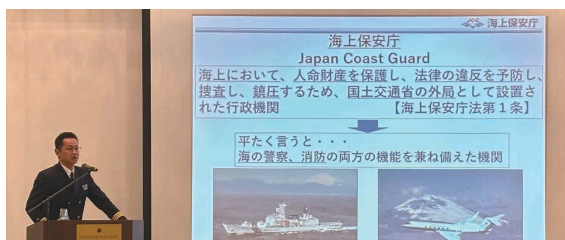
『障がい者の社会の一員として自立した生活のために』と『下北人物伝2工藤富治、飛行機に賭けた生涯』

令和7年9月5日(金)、むつグランドホテルを会場に、来賓として正木勉青森保護観察所長、天内修県保連会長をお迎えし、青森、野辺地、むつ下北各地区の保護司など総勢75名の参加者で研修、交流を深めました。

前半は、障害福祉施設ハートランド施設長補佐三浦和之氏による『障がい者の社会の一員として自立した生活のために』と題した講演で、後半は、下北の魅力再発見をコンセプトにした、青森大学むつキャンパス特任教授工藤和彦氏の『下北人物伝2工藤富治、飛行機に賭けた生涯』の2つの講演でした。特に工藤氏は講演の最後に特技である尺八の演奏もしてくださいましたので、参加者の心にも響くものがあったのではないのでしょうか。「とても参考になるお話でした」「尺八の独演奏を聴ける機会はめったにないので新鮮でした」などの感想をいただいたことは主催者として大きな喜びでした。

【報告】むつ下北地区保護司会長 菊池 治夫

2025 ブロック報告 県南



講師の八戸海上保安部次長角直樹氏



海上保安庁の業務内容と海上犯罪取締りの現状

1月23日、八戸プラザアーバンホールにおいて、研修部の企画による自主研修会が開催されました。講師は、八戸海上保安部次長角直樹氏、演題は「海上保安庁の業務内容と海上犯罪取締りの現状」です。海上保安庁は海の警察と消防の機能を兼ね備えた機関であり、海難救助、密輸・密漁・違法操業の取締り、海上交通安全確保等が主な任務であること、具体的な事案として、尖閣諸島周辺における警備、覚せい剤の密輸・ナマコの密漁の検挙、違法操業船舶の拿捕、海難事故への対応等についてのお話がありました。

海上保安庁と海上自衛隊の違いや保有する航空機・巡視船等についての説明のほか「海猿(潜水士)」にも触れられました。海上保安庁の任務や海上犯罪について知るよい機会となりました。

最後に講師から、海上保安官募集について家族や知人に働きかけてほしい旨の協力依頼がありました。

【報告】八戸地区保護司会 中村 光雄

2025 ブロック報告 弘南



秋田地区保護司会との交流事業
それぞれの活動について、活発な意見交換

令和7年6月に秋田地区保護司会より「保護司組織活動活性化事業」の受入側としてお話をいただきました。

秋田地区保護司会会長と事務局長と打合せを重ね開催日時は、11月25日水曜日で、会場はサポートセンターの見学もしたいという事でサポートセンターの入っている社会福祉センター大会議室に決定しました。

当日は秋田地区保護司会より18名、弘前地区保護司会より6名の参加となりました。

交流会では、サポートセンターの運営、社会を明るくする運動の作文コンテスト等、それぞれの活動について、活発な意見交換が行われ最後に弘前地区のサポートセンターを見学し交流事業を終えました。

【報告】弘前地区保護司会 吉川 真由美

更生保護施設 あすなる

退所後は仕事で収入を得ること



更生保護施設
プラザあすなる
施設長
笹森 康之

私どもは、施設入所者が一般社会での自立生活を迎えられるよう、特に就労及び住居確保等の自立に向けた支援を行っております。その中で感じていることが、今回の課題に結び付くのではないかと考えます。

施設入所者にとって、自立に繋げる第一の難関は「仕事を決める」事と言っても過言ではありません。施設退所後の安定した自立生活は“仕事をして収入を得る”ことから始まるからです。

施設入所者が、ハローワーク等の求人情報を基に、その事業所へ応募する時現在は必ずといっても良いくらい応募者の差出住所(官庁街のど真ん中にある)を確認する事が多いと感じられます。更にそのことによって、事業所側は差出人が更生保護施設に居ることを確認出来ます。そこで「更生保護施設って何だろう」と思い、ネット上で調べて初めて「刑務所出所者等で頼るべき人がいないなどの理由で、帰る場所がない……」という事を知ることとなります。結果応募した事業所より「残念ながら書類選考により今回は、」となることが多いのです。

私どもは、この事を重く受け止め、応募する前に「更生保護(施設)について説明」し、少しでもご理解いただけるよう、協力雇用主への加入も含めて、事前に「開拓」という言葉を使って、更生保護をご理解いただけるよう、就労支援事業者機構のお力をお借りして事前に行動することとしました。

その結果としては、簡単に数字では表せませんが「採用」また「協力雇用主への加入」も見られることになったことは事実です。

これは何も青森県に限ってという事ではないと思います。更生保護に携わっている私たちは、当たり前前に捉えてはいるものの世間一般では「更生保護の意味」など、何かがあって働き掛けない限り「知らない」方々が多いのが普通ではないかと思えます。

求人票を出されている事業所にとっては「募集要項に合致する人」また「他の社員と協調性をもって働ける人」を欲しいはずです。今までの開拓アプローチを総括し、更生保護施設に入っている人の事を聞かれたトップ3は、①「何をした人」②「人に暴力をふるった人」③「暴力団」です。この事だけでも、更生保護に携わっていない方は、全く何も更生保護に対する予備知識もない方が殆どです。

青森県の更生保護に思う事とは、更生保護に携わっている私どもが身近におられる市民の方々に「保護司とは」とか「再犯防止活動とは」等、語り掛けて広めていかない限り、更生保護への理解者(協力者)は多くはならないと思います。



青森市の青い森公園に隣接している
更生保護施設プラザあすなる

4月17日は

国際更生保護ボランティアの日

第6回世界保護観察会議と第2回世界保護司会議が、令和6年4月16日から18日まで、オランダ王国のハーグ市において開催されました。

本会議には、世界61か国から約500人が参加し、保護観察制度の特徴などについて議論が行われました。

この会議のプログラムの一つとして開催されたのが、第2回世界保護司会議です。令和3年に京都市で開催された第1回世界保護司会議で保護司を始めとした更生保護に関わる地域ボランティアの国際的な認知の向上と制度の普及を目指すことなどが盛り込まれた「京都保護司宣言」が採択され、今回の第2回世界保護司会議では、各国・地域における、罪を犯した人の立ち直りを支える地域ボランティアの活動等について発表と協議が行われました。

そして4月17日を「国際更生保護ボランティアの日」とする宣言が採択されました。



更生保護関係団体のマスコットキャラクター